



さかきえだ
榊枝 正史さん
環境学研究科
社会環境学専攻
環境政策論講座
竹内研究室 博士課程前期

新しい市民の力を信じて、四日市公害と向き合う

1960年代、全国各地で起こった公害問題。立場の弱い市民が企業や行政に対し声を上げ、大きなうねりをつくってその実態を白日のもとに晒した。榊枝さんが育った三重県四日市もそうした地域の一つ。石油化学コンビナートの排煙によるぜんそくで苦しむ人たちが、地元企業の責任を追及した「四日市公害」の歴史を持っている。

大学生の頃から市民運動に関心があった榊枝さん。環境問題の講義を聴いても、その環境に一番関与するはずの「人」の顔が見えてこない、講義を聴くだけでは環境は変わらない、そんな思いから四日市再生「公害市民塾」に参加、四日市公害の記憶を語り継ぐ活動を始めた。そこで見てきたのは、公害問題が地域コミュニティに残した様々な問題と、それが今も連綿と続く事実。「まずは何があったのか、今何が問題か。本当の意味で環境都市・四日市に生まれ変わるために、市民一人ひとりが公害の歴史を知って、これからのを考えていくことが必要ではないか」。

今、榊枝さんは81歳の公害体験者・澤井余志郎さんから語り部活動を勉強中。公害の記憶を受け継ぎ、次の時代に市民の力をどうつなげるか。体験はしていないけれど、若い世代だからこそできる、四日市公害との向き合い方があると信じている。



なたね通信
公害問題を市民にわかりやすく伝えたいと、
学生仲間と編集・発行する。



語り部活動
四日市公害体験者が、小学校などで子どもたちに、
当時の様子を語り継いでいる。



国立大学法人名古屋大学

〒464-8601

名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院環境学研究科

TEL.052-789-3455

www.env.nagoya-u.ac.jp/

